

Analysis of Kenji Miyazawa's Work : The  
Biography of Budori Gusuko

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2016-09-12<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 永嶋, 浩<br>メールアドレス:<br>所属:   |
| URL   | <a href="https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/364">https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/364</a> |

This work is licensed under a Creative Commons  
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0  
International License.



# 宮沢賢治作品の分析

## — グスコープドリの伝記 —

永 嶋 浩

### 1. はじめに

宮沢賢治（以下、賢治という）の作品は、アニメーション、紙芝居、戯曲、コミック、絵本、文庫など多くの分野で表現されており、児童文学の中でも一目置かれる地位を確立している。今年には賢治の没後 80 年でもあり各地で催しが行われたり、特に東日本大震災を経てからは賢治の作品というものが再評価されたり改めて多くの人の心を動かしている。本稿で取り上げる「グスコープドリの伝記」<sup>1)</sup>は「銀河鉄道の夜」とともに長編の有名な作品であり、賢治の代表作として知られている。「グスコープドリの伝記」は 1932 年 3 月に雑誌「児童文学」第二冊に発表されたものである。賢治の作品は発表年や作成原稿に不明なものが多いが「グスコープドリの伝記」は比較的正確さを保っていて、賢治の考えとしては作品発表を意識した数少ない作品のひとつになっている。そのため今回この作品についてテキスト分析を試みしてみる。賢治の文体は見たもの感じたものそのものを表現している傾向が多く、視点のすばらしさ、表現の美しさやテンポのよさがあり、宗教と科学の融合を指向している。本稿では作品を客観的に扱うため品詞の名詞に着目しながらオブジェクト指向の手法を取り入れた作品の可視化を試みる。オブジェクト指向では名詞句、動詞句の抽出からクラスの導出が重要な工程になっている。しかしここでは各抽出の工程を簡略化して名詞の抽出を形態素解析で行い、動詞の抽出を係り受けで調べテキスト分析に生かすことにする。

### 2. 分析システムの性能

日本語の文章の品詞抽出は Yahoo!JAPAN の WebAPI サービスを利用する。Java でプログラムを組み形態素解析には MAService 関数<sup>2)</sup>を使い、係り受け解析には DAService 関数<sup>3)</sup>を使う。そしてこれらをシステム化しておく。Yahoo!JAPAN の WebAPI サービスはプログラムを組み易くした機能が提供されているが、1 リクエストの最大サイズが 100 KB のため、扱うべき

文章の長さを適切な長さに調整しながらの利用制限が必要になる。他にも同様の機能を持つ MeCab や ChaSen, JUMON などの形態素解析ツール, 係り受け解析ツールの Cabocha がある。

例えば, 「庭には二羽ニワトリがいる。」の文章を MeCab で形態素解析すると, 表 1 のような形態素の属性の形式を階層化しながら表示する。Yahoo!JAPAN の WebAPI 使用でも同様に表示できるが, ここでは品詞の属性一つだけを取り上げて示してある。係り受け解析を比較しても Yahoo!JAPAN の出力結果は他の解析ツールと比較しても性能的な遜色はない。

表 1 MeCab の形態素解析出力例

|      |                            |
|------|----------------------------|
| 庭    | 名詞,一般,*,*,*,庭,ニワ,ニワ        |
| に    | 助詞,格助詞,一般,*,*,*,に,ニ,ニ      |
| は    | 助詞,係助詞,*,*,*,は,ハ,ワ         |
| 二    | 名詞,数,*,*,*,二,ニ,ニ           |
| 羽    | 名詞,接尾,助数詞,*,*,*,羽,ワ,ワ      |
| ニワトリ | 名詞,一般,*,*,*,ニワトリ,ニワトリ,ニワトリ |
| が    | 助詞,格助詞,一般,*,*,*,が,ガ,ガ      |
| いる   | 動詞,自立,*,*,一段,基本形,いる,イル,イル  |
| 。    | 記号,句点,*,*,*,。 ,。 ,。        |

表 2 Yahoo!JAPAN の形態素解析出力例

|      |    |   |
|------|----|---|
| 。    | 特殊 | 1 |
| いる   | 動詞 | 1 |
| が    | 助詞 | 1 |
| に    | 助詞 | 1 |
| は    | 助詞 | 1 |
| ニワトリ | 名詞 | 1 |
| 二羽   | 名詞 | 1 |
| 庭    | 名詞 | 1 |

表 3 Cabocha の係り受け解析出力例

|         |     |
|---------|-----|
| 庭には     | --D |
| 二羽ニワトリが | -D  |
| いる。     |     |
| EOS     |     |

表 4 Yahoo!JAPAN の係り受け解析出力例

|      |            |
|------|------------|
| 0    | Id         |
| 2    | Dependency |
| 庭    | 名詞         |
| に    | 助詞         |
| は    | 助詞         |
| 1    | Id         |
| 2    | Dependency |
| 二羽   | 接尾辞        |
| ニワトリ | 名詞         |
| が    | 助詞         |
| 2    | Id         |
| -1   | Dependency |
| いる   | 動詞         |
| 。    | 特殊         |

Yahoo!JAPAN の WebAPI サービスは, 多くの言語で実装できてシステム化することができるため, この解析ツールを使いながら, 今回は「グスコーブドリの伝記」の各章に対して形態素解析や係り受け解析を行いテキスト分析をする。

### 3. テキストマイニング

「グスコーブドリの伝記」は 9 つの章で構成されている。そこで各章毎の特徴をテキストマイニングで調べてみることにする。調査の中心は名詞や動詞の抽出になり, 名詞は単語の出現個数

に注目し、動詞は係り受け解析を使い名詞と動詞の関係に注目し復元要約に用いる。

### 3.1 名詞の比率

各章の文字数は図1に見られるように3章が5,208文字数で一番多く、7章が1,677文字数で一番少ない構成になっている。この構成から図2を見ると文字数が多ければ名詞の出現個数も多くなる傾向となっているのがわかる。但し、図2の形状をみてわかるように一部に例外箇所がある。各章毎に名詞/文字数の計算して割合を求めたものを図3に示す。5章(三位)、7章(二位)、9章(一位)章の割合は9%台を占めていて他の章より重要な章の役割を果たしているのが推測できる。さらに文字長を考慮した名詞の出現割合は、図4に示す通り5章が33.1%(一位)、7章が30%(二位)、9章29.9%(三位)の順位になっている。図3と図4から「グスコブドリの伝記」は5章をはじめとして7章と9章の3つの章が重要な文章構成に該当しているものと考えられる。つまりこの作品の中では賢治が一番重きを置いた章構成ということになる。

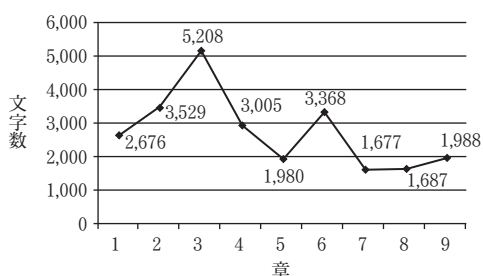


図1 文字数の変化

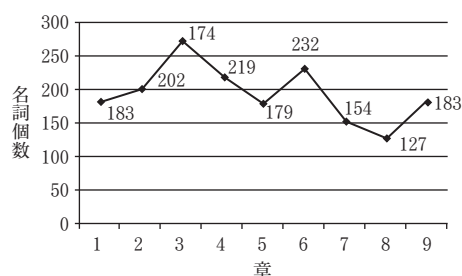


図2 名詞個数の変化

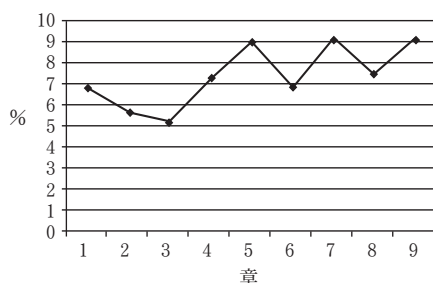


図3 名詞割合

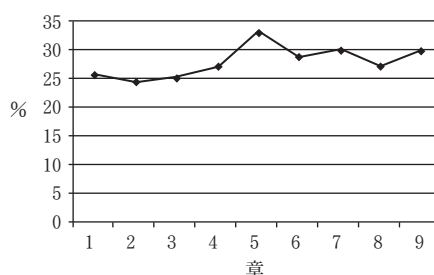


図4 文字長考慮の名詞割合

### 3.2 名詞と要約

文章の内容を簡潔に表現する要約は、読み手の手間を省くことを可能にしたり、文章の要点を速やかに把握できたりできる支援技術でもある。ここでは1章から9章の各章で得られた名詞を

順位付けして、その中から上位 13 件程度を使って簡単な復元要約を試みしてみる。復元要約は抽出名詞のほか、助詞、助動詞、動詞などを原作からセレクトする形で合成して形成する。このとき抽出名詞のリストは名詞と出現個数で構成しているが、名詞に対するノイズ処理は施して載せている。抽出名詞を用いた 1 章から 9 章の復元要約の復元精度は平均 46% 程度あり、抽出名詞は要約作成や章のキーワード抽出に役立つことがわかる。

### ① 1 章 (題: 森)

| 名詞   | 出現個数 |
|------|------|
| 二人   | 14   |
| ブドリ  | 11   |
| お父さん | 10   |
| お母さん | 10   |
| 森    | 9    |
| 木    | 9    |
| ネリ   | 7    |
| 家    | 5    |
| 粉    | 4    |
| 中    | 4    |
| 男    | 4    |
| 籠    | 3    |
| 麦    | 3    |

(復元要約)

ブドリは森の中に生まれました  
ブドリとネリの二人は森で遊びました  
お父さんは木こりでお母さんは家の畑に麦をまいている

家族の紹介を取り上げていて、森における生活の様子が伺える。森という題は出現個数が 5 番目の順位からとられているが、本章では森を重要なキーワードとして扱っているため選ばれている。名詞の出現個数は語の重要度を意味するため出現個数の多い名詞の中からキーワードは選ばれ易い。復元要約は、原作の 56% の出来具合でかなりの復元精度を成している。

### ② 2 章 (題: てぐす工場)

| 名詞  | 出現個数 |
|-----|------|
| ブドリ | 28   |
| 男   | 19   |
| てぐす | 14   |
| 木   | 14   |
| 森   | 10   |
| お前  | 8    |
| 栗   | 8    |
| 網   | 8    |
| おれ  | 7    |
| まり  | 7    |
| 糸   | 7    |
| 家   | 6    |
| 工場  | 6    |

(復元要約)

栗の木に男が網を投げたりしている  
てぐすが飼える  
男はブドリへまりを渡しました

森の栗の木を使い、てぐす糸を作る作業に関するブドリと男のやりとりが中心に構成されている。「お前」がブドリを指し、「おれ」は男を指している。てぐす工場という題は、3 番目のてぐすの重要度が前面に出たことと 13 番目の工場からとった合成語として用いられている。復元要約は、原作の 48% の出来具合を示している。

## ③ 3章 (題：沼ばたけ)

| 名詞  | 出現個数 |
|-----|------|
| ブドリ | 31   |
| 主人  | 30   |
| 沼   | 22   |
| おれ  | 20   |
| 水   | 19   |
| オリザ | 18   |
| 石油  | 14   |
| 次   | 10   |
| おまえ | 9    |
| 人   | 9    |
| みんな | 7    |
| 病気  | 7    |
| 花   | 6    |

(復元要約)

主人はブドリをつれて沼ばたけを通り  
オリザへ病気が出た  
石油で病気が死ぬ

沼ばたけでの出来事が表現されている。沼ばたけ単独の単語は名詞の抽出からは得られていないが、オリザはラテン語で稲であり、本章には田んぼにまつわる語が多く、3番目の位置に沼があることからキーワードとしての重要度を考慮して沼ばたけが題に選ばれている。主人はブドリを雇った人で、「おれ」は主人を指し、「おまえ」はブドリを指している。復元要約は原作の41%の出来具合を示している。

## ④ 4章 (題：クーボー大博士)

| 名詞     | 出現個数 |
|--------|------|
| ブドリ    | 23   |
| 博士     | 14   |
| 学生     | 7    |
| 図      | 6    |
| 先生     | 5    |
| クーボー   | 4    |
| ノート    | 4    |
| 灰      | 4    |
| 顔      | 4    |
| 汽車     | 4    |
| 手帳     | 4    |
| イーハトーヴ | 3    |
| 学校     | 3    |

(復元要約)

ブドリはクーボー博士の学校へ行く  
先生は図を書きました  
学生もまねをしました  
ブドリも手帳を出して図を書き取りました

ブドリはイーハトーヴ行きの汽車に乗りクーボー博士の学校を訪ね、人生で転機になる出会いのシーンが表現されている。博士は出現個数が2番目の位置にあり、ブドリを除いて一番重要度が高く、学生らは大博士と呼んでいることから大博士の名前を付けた形で題に使われている。復元要約は原作の36%の出来具合を示している。

## ⑤ 5章 (題：イーハトーヴ火山局)

| 名詞    | 出現個数 |
|-------|------|
| ブドリ   | 14   |
| 火山    | 9    |
| サンムトリ | 6    |

(復元要約)

ブドリは技師から器械を教わりました  
イーハトーヴの火山は掌の中にあるようにわかってきました  
サンムトリの火山が器械に感じ出してきました

|        |   |
|--------|---|
| イーハトーヴ | 5 |
| 器械     | 5 |
| 技師     | 5 |
| 人      | 5 |
| ガス     | 4 |
| 建物     | 4 |
| 仕事     | 4 |
| 熔岩     | 4 |
| 山      | 3 |
| 中      | 3 |

溶岩やガスの様子、山の形の変化などを数字や図で表わすリモートのデータセンサシステムを扱う新天地での仕事の内容が、抽出した名詞の組み合わせから読み取れる。新天地はイーハトーヴ火山局であり、この名称が題に使われている。復元要約は原作の46%の出来具合を示している。

## ⑥ 6章（題：サンムトリ火山）

| 名詞    | 出現個数 |
|-------|------|
| 技師    | 21   |
| ブドリ   | 18   |
| 老     | 15   |
| 山     | 13   |
| サンムトリ | 11   |
| 小屋    | 10   |
| 博士    | 9    |
| 灰     | 8    |
| 岩     | 6    |
| 器械    | 6    |
| 工作    | 6    |
| クーボー  | 5    |
| 飛行船   | 4    |

（復元要約）

ブドリと老技師はサンムトリ山の小屋に登りました  
飛行船は岩にとまってクーボー博士が飛び下りていました

サンムトリ山を工作して、噴火の危険を取り除くため人工的に噴火させる処置をとる。このような現場における職場の雰囲気生き生きと表現されている。火山の出現個数は2であるが、サンムトリが5番目の重要度を占めている絡みで題が現場を指すサンムトリ火山になっている。復元要約は原作の40%の出来具合を示している。

## ⑦ 7章（題：雲の海）

| 名詞     | 出現個数 |
|--------|------|
| 雲      | 12   |
| ブドリ    | 9    |
| 海      | 7    |
| 火山     | 7    |
| イーハトーヴ | 6    |
| 雨      | 6    |
| 下      | 4    |

（復元要約）

ブドリはイーハトーヴ火山におり下は雲の海でした  
受話器が鳴り雨はふっている  
飛行船はけむりを網のように描く

賢治の真骨頂である描写の美しさが表現されている。ブドリらの沼ばたけに硝酸アンモニアを降らす壮大な試験が実施される。雲の海の題は1番目と3番目の重要度で構成され、雲海と言わ

|       |   |
|-------|---|
| 受話器   | 4 |
| けむり   | 3 |
| 月     | 3 |
| 飛行船   | 3 |
| 網     | 3 |
| アムモニア | 2 |

ずに詩的に名付けられている。例えば、作業の合間に雲の海を見ながら感じ取った雲の色の変化等が表現されている。復元要約は原作の54%の出来具合を示している。

### ⑧ 8章 (題：秋)

| 名詞  | 出現個数 |
|-----|------|
| ブドリ | 19   |
| ネリ  | 8    |
| 一人  | 5    |
| パン  | 4    |
| 家   | 4    |
| 火山  | 4    |
| 中   | 4    |
| 主人  | 3    |
| 男   | 3    |
| 畑   | 3    |
| 百姓  | 3    |
| 牧場  | 3    |
| オリザ | 2    |

(復元要約)  
パンを買おう  
男がきてブドリだなといい  
家の中や畑から百姓がかけてきました  
ネリを牧場の主人がお守をさせたりしていました

ブドリが仕事の帰りに立ち寄った小さな村での出来事を発端にしたネリとの再会のいきさつが表現されている。本章に秋という名詞は出てきていないが、季節の趣、みのりの秋から題には秋が使われている。復元要約は原作の38%の出来具合を示している。

### ⑨ 9章 (題：カルボナード島)

| 名詞   | 出現個数 |
|------|------|
| ブドリ  | 17   |
| 先生   | 7    |
| 技師   | 5    |
| 仕事   | 5    |
| ネリ   | 4    |
| 私    | 4    |
| 森    | 4    |
| お父さん | 3    |
| ペンネン | 3    |
| 気候   | 3    |
| 炭酸ガス | 3    |
| 爆発   | 3    |
| 木    | 3    |

(復元要約)  
ブドリのお父さんが森の木のしたにある  
ブドリはネリをつれていく  
ブドリは博士をたずねました  
爆発したら気候を変える炭酸ガスを噴くでしょうか  
先生私にやらしてください  
先生からペンネン先生へお許しのことをください

ブドリを通して賢治の生き方が表現されている。今すべきことは何か、しあわせとは何かが題にした出現個数2のカルボナード島で実践され、壮絶な結末で文章が結ばれている。それはブドリが最後の一人になり火山を爆発させて気候を変える仕事を遂行して絶命するからである。爆発行為には科学上の矛盾はあったにせよ、宗教と科学の融合が行われる。復元要約は原作の61%の出来具合を示している。



### 3.3 名詞語長の特徴

メンデンホールは1887年のサイエンス誌に単語の長さの分布から書き手を推定できるかどうかの論文を発表し、シェークスピアとベーコンの文章について比較分析<sup>4)</sup>をしている。シェークスピア別人説の一つにベーコンがシェークスピアであるという説があり、その謎を解くために計量分析を最初に用いた人物である。今日ではこの研究論文が計量文献学やテキストマイニング分野の多くの論文に引用される状況になっている。

ここでは「グスコブドリの伝記」の各章を誰が書き手なのかという風に見立てて名詞語長の分布を調べてみることにする。各章毎の名詞語長の割合でみると各章とも名詞語長として2語の使用が多い。次に多く使用されている名詞語長は1語、3語、4語、5語、6語、7語の順になっている。1章だけが他の章とパターンが異なり、1章を除けばグラフの表現は図5の通り同じ傾向を示している。1章は、同一人物の作品であればグラフの傾向は同じになり易いはずであるが、話し言葉、句読点の量から検討しても説明できない内容であり説明し難いグラフになっている。名詞語長の情報からだけでは作者を特定できる確たるものというのは、メンデンホールの論文やその後の研究でも議論されているが謎が解決したとは言い難いのが現状である。賢治の場合は、書き手が異なるという可能性はないため解析ツールの精度なのか文章に対する心理の変化や作成時期のずれなどが文章に影響を与え異なる原因になったのではないかと推測する。

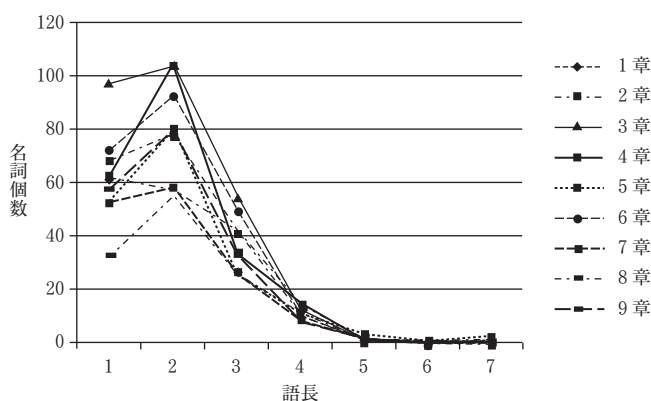


図5 各章の名詞語長

## 4. オブジェクト指向の適用

1章から9章の文章をクラス、インスタンス、その他に分けてみる。この分け方にはオブジェクト指向の考え方を適用して行う。さらに5章、7章、9章についてはクラス図の表現をとり、

その特徴を取り上げる。そして文章構成における has-a が果たす役割を考える。

#### 4.1 クラスとインスタンス

クラス、インスタンス、その他の使用割合を図6に示す。インスタンスは物語の固有名詞として一定の割合で使われている。およそ物語の一割を占めている。つまり物語の基本的素材が一定割合で全章にわたり使われていることを示している。クラスはその他との兼ね合いになりクラスが多いとその他は少なくなり、クラスが少ないとその他は多くなるという関係にある。名詞の比率の所でも指摘してきたように5章、7章、9章が他の章に比べクラスの使用割合が高くなっている。クラスが多いということは文章の内容に活力を与える度合いが増していくものとみなせる。

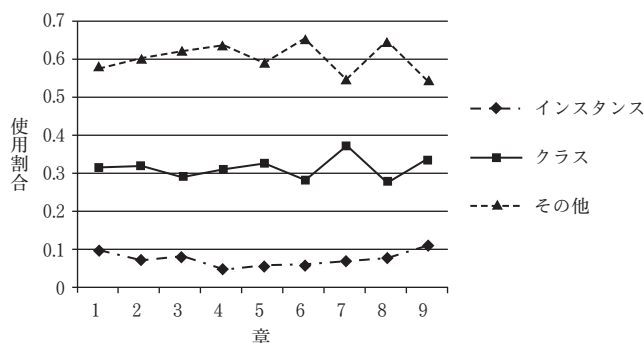


図6 各章の使用割合

#### 4.2 クラス図表現

文章が仕様書的に has-a や is-a などのような構成で出来ているかをオブジェクト指向の視点で調べてみる。但し、has-a の世界だと解釈されたとしてもその先の集約やコンポジションまでの検討は今回行わない。さらに has-a は「～は～を持っている」、is-a は「～は～である」を基本に「いる」と「である」の意味合いを考える。

##### ① 5章

図7は新天地での職場の様子を説明している。その説明は has-a の世界で把握することができる。5章は文章そのものがオブジェクト指向的内容のためクラス図である程度捉えることができる。

図7の地図模型は図8の器械に相当している関係があり、地図模型がイーハトーヴ火山局の火山データセンサの装置になっている。図8の器械は火山データセンサの装置を指し、火山のデータを遠隔に収集できるシステムとして構築されている。5章のキーワードは、図7と図8の各クラス図から地図模型あるいは器械となる。

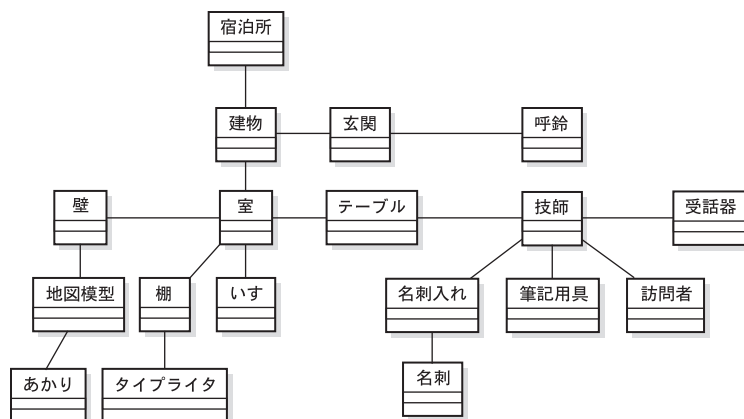


図7 火山局のクラス図

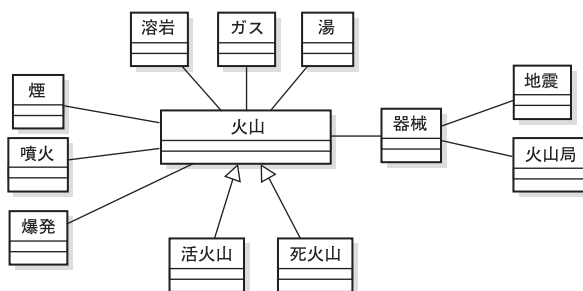


図8 火山のクラス図

## ② 7章

図9は作業員であるブドリがイーハトーヴ火山から窒素肥料を降らせる工作のやり方を示している。工作には開始、確認、中止の3つのパターンがある。この工作の情報は火山局がポスターを作り事前に周辺の町村に配布するようにして知らせている。

図10は火山局の持っている人員、設備を示している。火山局は博士の計画書に依存し、オブジェクトとしての発電所、作業員を決めている。この作業員はブドリであり観測小屋にいて工作を行う。7章は一部に is-a の世界があるが、has-a の世界、依存やインタフェース & 実現の世界で構成されていて、文章そのものが仕様書のようにコンパクトであり Facade パターンの導入で把握することができる。

## ③ 9章

図11はブドリの家族の現況と良い作柄を得るための爆破業務をいかに遂行するかが示されて

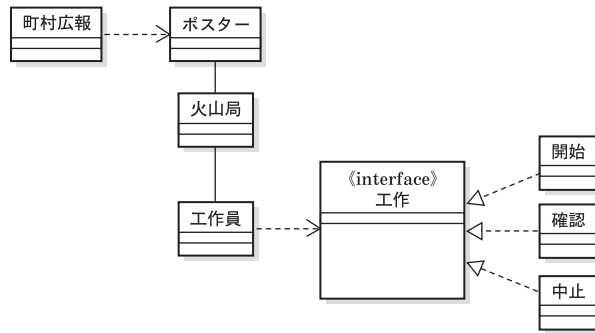


図9 工作のクラス図

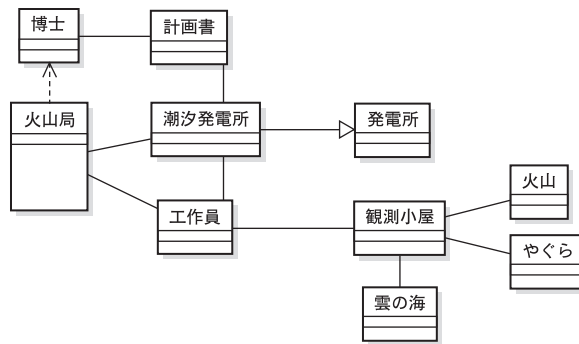


図10 火山局設備周辺のクラス図

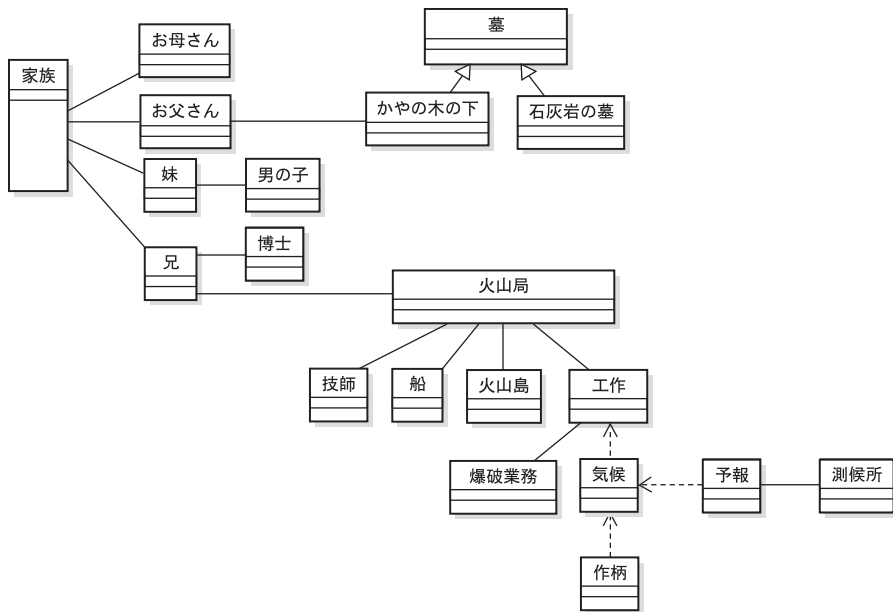


図11 作柄向上のクラス図

いる。兄はもちろんブドリを指している。9章は過去の苦しい生活の回顧と明るい未来を切り開くための努力の大切さが取り上げられ、has-aの世界、is-aの世界、依存の世界で構成されている。9章のキーワードは気候変動に影響されやすい作柄であり、全章を通しての切実な目標になっている。つまり農作物の作柄が良ければ、ブドリの家族のような不幸を防ぐことができ、世の中の人々がしあわせを掴むことができるものと主張している。

#### ④ 「いる」と「である」

日本語の文法として「ある」、「する」、「いる」をみると「ある」と「する」は形式動詞であり補充や修飾の成分に補足されて実質動詞になれる関係がある。あるいは「ある」「いる」には存在や所有の表現ができたり、意思性の有無などでいろいろな表現形式が成り立つものとの説明<sup>9)</sup>がある。

一方社会の考え方として「である」論理や「である」社会から「する」論理や「する」社会への推移は、社会関係が複雑で多様な関係になるほど「する」論理や「する」社会へ移行して行くものであるとの指摘<sup>9)</sup>がある。「である」社会は上下関係の道徳や階層を生む社会であり、例えば儒教の世界が符合する。「する」社会は「する目的」や「すること」の社会過程であり変化に富む社会を生むことができる。それは現在の社会を反映していることにもなる。オブジェクト指向は世の中のすべてをモノとしてみる見方であり、上記の説明や指摘を「いる」や「である」の意味の中に取り込むことができる。

「AはBを持っている」の「持っている」は、「持つ」や「有する」の状態動詞を表している。さらに「持っている」の「いる」は、「存在する」の意味があり、「有る」「ある」につながっている。補充や修飾の使い方によっては「する」から「いる」への状態変化の関わりがみれる。「AはBと～関係にある」の「ある」の意味にも関わってくる。つまり「持っている」と「関係にある」は関連性のある状態に属する。しかも「持っている」ことは「使う行為」にも派生し、「AはBを利用している」として扱えるため作用動詞に変化することができる。そして何かを構成する関係は「AはBを含む」のような表現ができ、見方を変えると「BはAの一部分である」とも表現できる。「持っている」世界とはこれらの内容を広く含んでいる。このような考え方がhas-aの世界である。5章はほとんどhas-aで構成できている。このことは名詞と名詞の間の参照や利用関係が記述されて物語が構成されていることを示している。

「AはBである」の「である」は助動詞「だ」の連用形「で」に補助動詞「ある」が付いたもので断定や説明に使われる。この形はis-aの世界を表し、AやBの名詞間の包含関係を示すことができる。特にAはBの特徴や性質を受け継ぎ、しかもA独自の特徴や性質を持つことができる。このようなことはインヘリタンスと呼ばれ、日本語では継承と表現され、AはBの下位

概念として扱われる。例えば5章ではAに活火山や死火山が当てはまりBが火山になる。7章ではAに潮汐発電所が当てはまりBが発電所になる。9章ではAにかやの木の下の(樹林墓)や石灰岩の墓が当てはまりBが墓になる。三つの章の物語の中には継承が三例しか使われていないが、物語の構成としては話し手の断定や状況の説明が必要とされるため is-a は、has-a とともに使われる文章構成になる。つまり、この三章からは上下の階層を表現できる is-a の「である」より、多様な関係の複雑さを表現できる has-a の「いる」の方が一般に多く使われているというのがわかる。

## 5. まとめ

抽出した名詞の出現個数は文章に対する重要度の指標になり、復元要約の作業では有効に機能した。クラス図から導くキーワードの抽出は、名詞の出現個数に関係なくシステムの何が重要な視点での検討が求められ、その結果5章からは「地図模型」が目的機能として抽出でき、7章からは「工作」が目的に達するための行動として抽出でき、9章からは「作柄」が目的達成の結果として抽出できた。章単位でみた場合、ブレモンの言う「三つの相」<sup>7)</sup>の考え方にも沿う形をしている。つまり目的、行動、目的達成の順でストーリーが展開している。従って「グスコブドリの伝記」は5章→7章→9章の流れがストーリー上重要な筋になっていて物語を構成しているのがわかる。バルトが分けた機能、行為、物語行為の記述レベル<sup>8)</sup>のやり方より、今回のテキスト分析で得られた「グスコブドリの伝記」からは、火山局の業務を通して実施された工作による作柄の向上という結論が提示され組み立てられたものと指摘できる。さらに文章が見たものの、感じたものそのものを言い表している場合には、is-a や has-a で把握することができ、とりわけ has-a は文章構成によく使うことができるものと言える。

### 参考文献

- 1) 宮沢賢治、『宮沢賢治全集8』、筑摩書房、pp.230-271、1986
- 2) <http://developer.yahoo.co.jp/webapi/jlp/ma/v1/parse.html>
- 3) <http://developer.yahoo.co.jp/webapi/jlp/da/v1/parse.html>
- 4) 村上征勝、『シェークスピアは誰ですか? 計量文献学の世界』、文藝春秋、pp.44-52、2004
- 5) 北原保雄監修、『朝倉日本語講座5 文法I』、朝倉書店、pp.33-38、2003
- 6) 丸山真男、『日本の思想』、岩波書店、pp.154-180、1961
- 7) クロード・ブレモン、阪上脩訳、『物語のメッセージ』、審美社、pp.65-67、1975
- 8) ロラン・バルト、花輪光訳、『物語の構造分析』、みすず書房、pp.10-45、1979